

氏 名	河上 一公
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第 4 2 7 号
学位授与年月日	平成 2 6 年 6 月 4 日
審 査 委 員	主査 教授 北垣 一
	副査 教授 山口 修平
	副査 教授 秋山 恭彦

論文審査の結果の要旨

統合失調症は思春期・青年初期に好発し、慢性経過をたどる疾患である。これまでに形態的な脳画像研究においては、MRI(magnetic resonance imaging)を用いた比較で、統合失調症患者は健常者よりも加齢による脳容積の低下が強いことが示唆されている。一方、機能的な脳画像研究では SPECT(single photon emission computed tomography)を用いた脳血流画像において統合失調症患者では前頭葉を中心とした血流低下が示唆されている。しかし、統合失調症患者の脳血流と年齢との関係についての研究結果は報告されていない。

そこで申請者は、統合失調症の脳血流における年齢の影響について検討した。具体的には統合失調症患者 44 名と健常者 37 名に脳血流 SPECT 検査を施行し、Patlak plot 法と呼ばれる非侵襲的方法を用いて各人の脳血流量値を算出した後、SPM(statistical parametric mapping)による統計解析処理を行い、全脳を対象に統合失調症群と年齢を補正した健常群における脳血流について比較検討した。その結果、健常群に比べ、統合失調症群は両側側頭葉で統計学的に有意な血流低下を認めた。さらにその血流低下領域において、統合失調症群では年齢と共に脳血流低下がより顕著になることを明らかにした。これらの結果は統合失調症の治療期間や抗精神病薬投与量に影響を受けなかった。

以上より、本研究は統合失調症において側頭葉の脳血流が低下することおよび、その低下が加齢とも関連することを明らかにした研究であり、この研究成果は統合失調症の病態把握や発症予防に寄与することが考えられるため、学位授与に値すると判断した。